

市町村への指導事項(案)

肺がん検診の現状と課題

1 検診受診率(令和元年度検診実施分)

- ・受診率は18.08%だった。平成30年度と比較すると、全国平均(10.23%)より 7.85 ポイント高く、県平均(18.83%)より 0.75 ポイント低い。

2 精検受診率(平成30年度検診実施分)

- ・精密検査受診率は 86.94%だった。平成29年度と比較すると、全国平均(82.93%)より 4.01ポイント高く、県平均(85.77%)より1.17ポイント高い。しかし、全国平均を下回った市町村が12あった。
- ・性別・年齢階級別にみると、59歳以下男性の精密検査受診率が全ての年代で昨年度を上回った。
- ・40 歳から 74 歳までの事業評価指標において、精密検査受診率が許容値(70 以上)より低い市町村があった。

3 がん発見率等(平成30年度検診実施分)

- ・がん発見率は 0.06%だった。平成29年度は全国平均 0.06%、県平均 0.08%だった。
- ・精密検査該当率は 2.60%だった。平成29年度の全国平均(2.02%)及び県平均(2.56%)より高い。
- ・陽性反応適中度は2.47%だった。平成 29 年度の全国平均(2.74%)及び県平均(2.98%)より低い。
- ・要精密検査者数のうち、未受診者は807人で要精密検査者に占める割合は11.79%だった。平成29年度の全国の精検未受診率(6.31%)を上回る。

4 精度管理(令和2年度検診実施分)

- ・市町村については、集団検診においてA評価が1, B評価が31, C評価が2, D 評価が1, 個別検診においてA評価が1, B評価が2となった。
- ・検診実施機関については、集団検診実施機関においてはA評価が3, B評価が3であり、個別検診実施機関においては、Aが2となった。

市町村への指導事項について

がん検診事業

(1)がん検診の受診率向上等

- 宮城県がん対策推進計画の目標である「がん検診受診率70%(職域検診及び人間ドック等を含む)」の達成に向けて、広報誌、ホームページ等あらゆる機会を利用して、引き続き啓発に努めること。
- がん検診の周知において、日程、場所等のみではなく、検診の意義やがんについての情報(がん罹患率等)もあわせて提供する等、対象者全員に個別にがん検診受診の必要性を伝えつつ受診票を送付するなど、受診率の向上に関する具体的な対策を講ずること。
- 検診受診率のさらなる向上をはかるため、未受診者への受診再勧奨の実施、過去数年間に受診歴のない者への個別勧奨の重点的な実施、勧奨はがきをそのまま受診票として使えるようにすることなど受診勧奨の強化に努めること。

(2)がん検診事業評価のためのチェックリスト項目の遵守等

- がん検診精度管理調査におけるチェックリストの改定(平成28年3月)に沿って、個々の検診機関と協力して現状を把握の上、遵守に努めること。

(3)各がん検診事業における留意事項

- ① 胃がん検診事業 (胃がん部会で検討)
- ② 子宮頸がん検診事業 (子宮がん部会で検討)
- ③ 肺がん検診事業
 - 第3期宮城県がん対策推進計画で定める精密検査受診率95%の目標達成に向けて、未受診者への受診再勧奨及び未把握者の動向把握に努めること。
 - 精密検査の未受診理由を把握し、精検受診の重要性について住民の理解促進を図ること。
 - 要精密検査者に対する受診勧奨を行う際、市町村が指定する精密検査の日程で受診できない者に対して、適切な医療機関等で精密検査を受けられるよう情報提供が不十分な市町村に関しては、十分な情報提供を行うようにすること。
- ④ 乳がん検診事業 (乳がん部会で検討)
- ⑤ 大腸がん検診事業 (大腸がん部会で検討)